

今週（4月16日から4月20日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、新しい積み期間に入ったこともあって調達に慎重な先が多く、弱めの地合いで推移した。当座預金残高が380兆円台半ばと高水準で推移する中、無担保コールO/N物は▲0.08～▲0.045%のレンジでの出会いで始まった。その後は徐々に調達レートが低下し、無担保コールO/N物加重平均レートは日を追う毎に低下した。週末の20日は3日積みとなったものの、調達ニーズは弱く、▲0.086～▲0.05%のレンジでの出会いで推移した。ターム物に関しては、地銀業態を中心にショートターム物で▲0.05%近辺での出会いが散見された。

固定金利方式の共通担保資金供給オペに関しては、19日に2W物8,000億円がオファーされ、応札額1,952億円(期落ち分1,602億円)と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、概ね▲0.18～▲0.14%程度のレンジでの取引となった。先週に続き資金調達サイドの厚みに乏しい状況は変わらず、玉確保のビッドニーズが強かったことを受けて、低めのレート水準で推移した。

SCは個別銘柄では2y384～386、5y130～135、10y333～350、20y163～164、30y57～58等、カレント近辺やチャーペスト周りの銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、引き続き品薄感が強く、全般的に堅調な相場展開となった。

18日に実施された1Y物の入札は、WI取引での▲0.18～▲0.17%の強めの出会いを受けて、平均落札利回▲0.1796%、按分落札利回▲0.1757%と事前予想よりも強い結果となった。セカンダリーでは、▲0.19～▲0.185%の出会いと強含みで推移した。19日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.17%から▲0.185%に買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.1804%、按分落札利回▲0.1744%とWI取引を反映し、強い結果となった。セカンダリーでは、▲0.19%で少額出合った他は、引けにかけて▲0.18%売り気配と小甘く推移した。

20日に実施された短国買入オペは、市場レートが低水準で推移していることもあってか、2,500億円のオファーにとどまった。応札額は12,344億円と多く、平均落札利回較差+0.005%、按分落札利回較差+0.005%と小甘い結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は卸売・ノンバンク・鉄鋼業態等からまとまった額での調達が見られ、週間償還総額2,700億円程度に対して、週間発行総額8,100億円程度と発行超のマーケットとなった。3月末に13兆5,000億円程度まで落ちた市場残高は15兆円台まで回復したものの、業者の玉確保のニーズが根強く、銘柄数に広がりも見られないため、一部の残高の少ない銘柄を中心に通常よりも低いレートでの決着が多く見られた。この状況は、企業の資金需要が本格的に増加する5月下旬まで続くことも考えられる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
4/16 (月)	21,835.53	0.035	107.22	△ 0.059	△ 0.151	3,852,800
4/17 (火)	21,847.59	0.035	107.00	△ 0.063	△ 0.158	3,865,500
4/18 (水)	22,158.20	0.030	107.32	△ 0.063	△ 0.166	3,868,400
4/19 (木)	22,191.18	0.035	107.44	△ 0.069	△ 0.170	3,850,700
4/20 (金)	22,162.24	0.055	107.49	△ 0.070	△ 0.159	3,859,000

来週（4月23日から4月27日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
4/23 (月)				3月の米中古住宅販売
4/24 (火)	3月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 2月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	2Y 21,000億円 5/15発行		2月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 3月の米新築一戸建て販売件数 4月の米CB消費者信頼感指数
4/25 (水)				
4/26 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~)	TB3M 44,000億円 5/1発行	交付税借入 10,500億円 5/10借入	ECB定例理事会(金融政策発表) 3月の米耐久財新規受注
4/27 (金)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望 3月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 4月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 3月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 3月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 3月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 3月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)			1-3月期の米GDP速報値 1-3月期の英GDP速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/23 (月)	▲ 600	3,900	3,300	全店共通 国債補完 CP買入	▲ 1,600 300 ▲ 200	2,000	500	3,800	TB3M発行▲44000償還42600 20Y発行▲10000 社会保障関係の払い
4/24 (火)	▲ 2,000	▲ 12,000	▲ 14,000	国債買入 短国買入		7,100 2,500	9,600	▲ 4,400	申告所得税揚げ
4/25 (水)	▲ 3,000	10,000	7,000	社債等買入		1,300	1,300	8,300	地方消費税の払い込み
4/26 (木)	▲ 3,000	▲ 2,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	交付税借入▲10500期日10500
4/27 (金)	▲ 4,300	4,500	200	CP買入		2,500	2,500	2,700	
週間合計	▲ 12,900	4,400	▲ 8,500	—	▲ 1,500	15,400	13,900	5,400	

4/23は日銀予想、4/24以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積みの序盤であることや、大型連休を控えていることから、調達サイドの慎重姿勢は変わらず、無担保コールO/N物加重平均レートは引き続き弱含みで推移することが予想される。資金需給は、23日に社会保障関係の大幅な払い、20Y発行、24日に申告所得税揚げ、25日に地方消費税の払い込みが予定されている。

レボ市場は、決済短縮化を控え、5月1日近辺の取引が注目される。

短国市場は、26日に3M物の入札が実施予定となっており、短国買入オペの動向を含め、レート水準が注目される。

CP市場は、大型連休を控え、発行量の増加が期待される。また、24日にはCP等買入オペが2,500億円が実施予定となっている。

主要なイベントとしては、国内では26~27日の日銀金融政策決定会合、海外では26日のECB定例理事会、27日の1-3月期の米国GDP速報値、1-3月期の英国GDP速報値などが挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。